

しまだ小学校・高坂小学校の現地調査について

1 しまだ小学校関係

資料名	現 状	検討案
高低差と校舎配置 (3 ページ)	- 敷地は、3 段造成になっています。 - 本館が運動場の南側に位置しており、日当たりが悪くなっています。また、職員室から運動場の一部が見渡せなくなっています。	校舎配置を変更します。
土砂災害（特別）警戒区域及び液状化発生の可能性エリア (4 ページ)	- 土砂災害（特別）警戒区域が、一部本館にかかっています。 - 液状化発生のある（可能性が高い）エリアが東館及び体育館棟にかかっています。	- 校舎配置を変更します。 - 校舎棟の新築により、液状化発生の可能性を踏まえた施設整備をします。
名古屋市地区防災カルテ 天白区しまだ学区 (抜粋) (5 ページ)		
送電線について (6 ページ)	運動場の西側端の上空の一部に送電線があります。	－（磁界測定の結果は、国の規制値未満となっています。）
鉄塔について (7 ページ)	隣接地に、送電線の鉄塔があります。	－（法令基準で設計されています。）

2 通学路関係

想定される通学路について (9 ページ)	学校統合により想定される通学路と、現在の状況について
-------------------------	--

【参考】

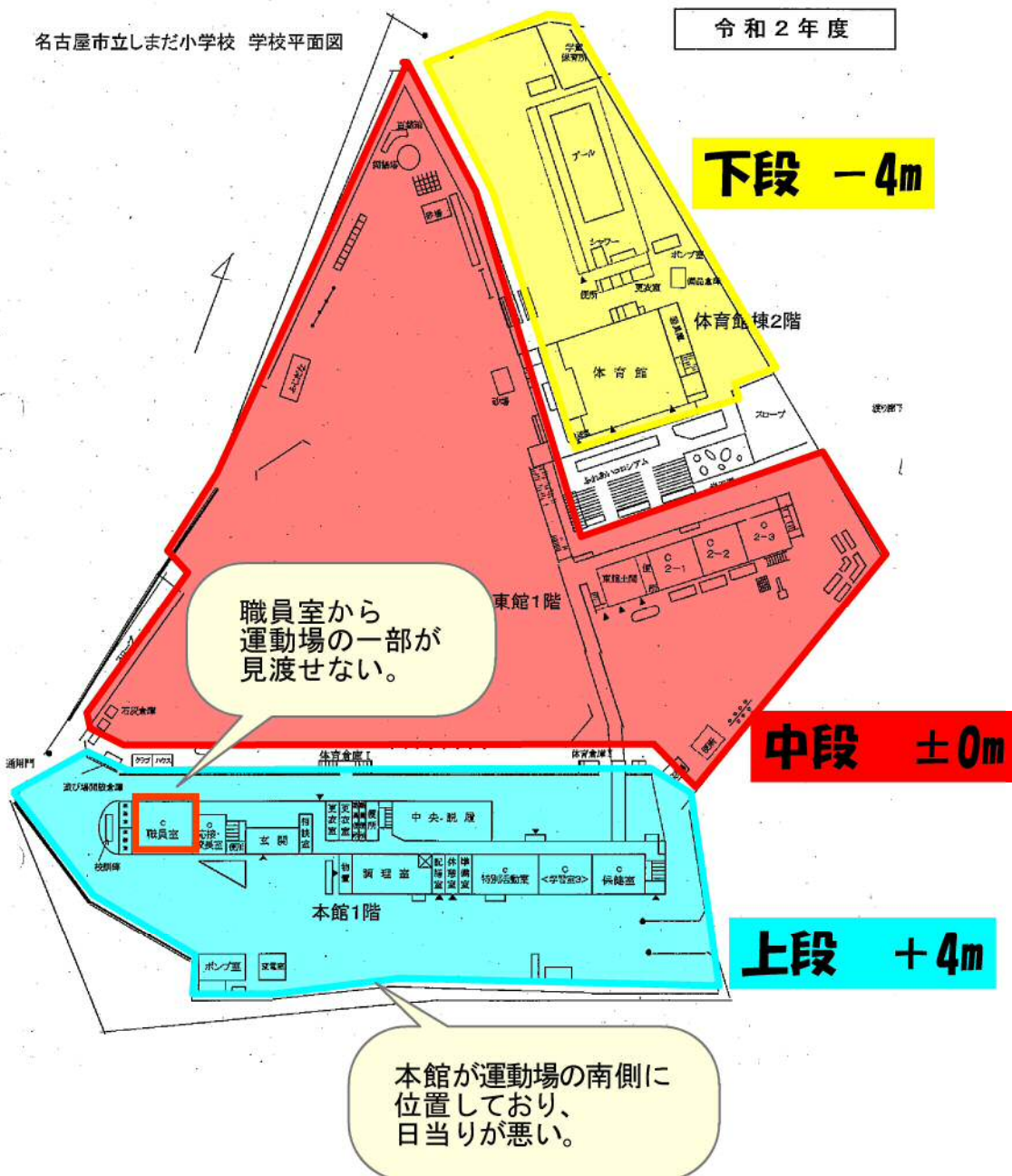
○指定緊急避難場所、指定避難所について

「指定緊急避難場所」…命を守るため、災害の危険からまずは逃げるための場所。

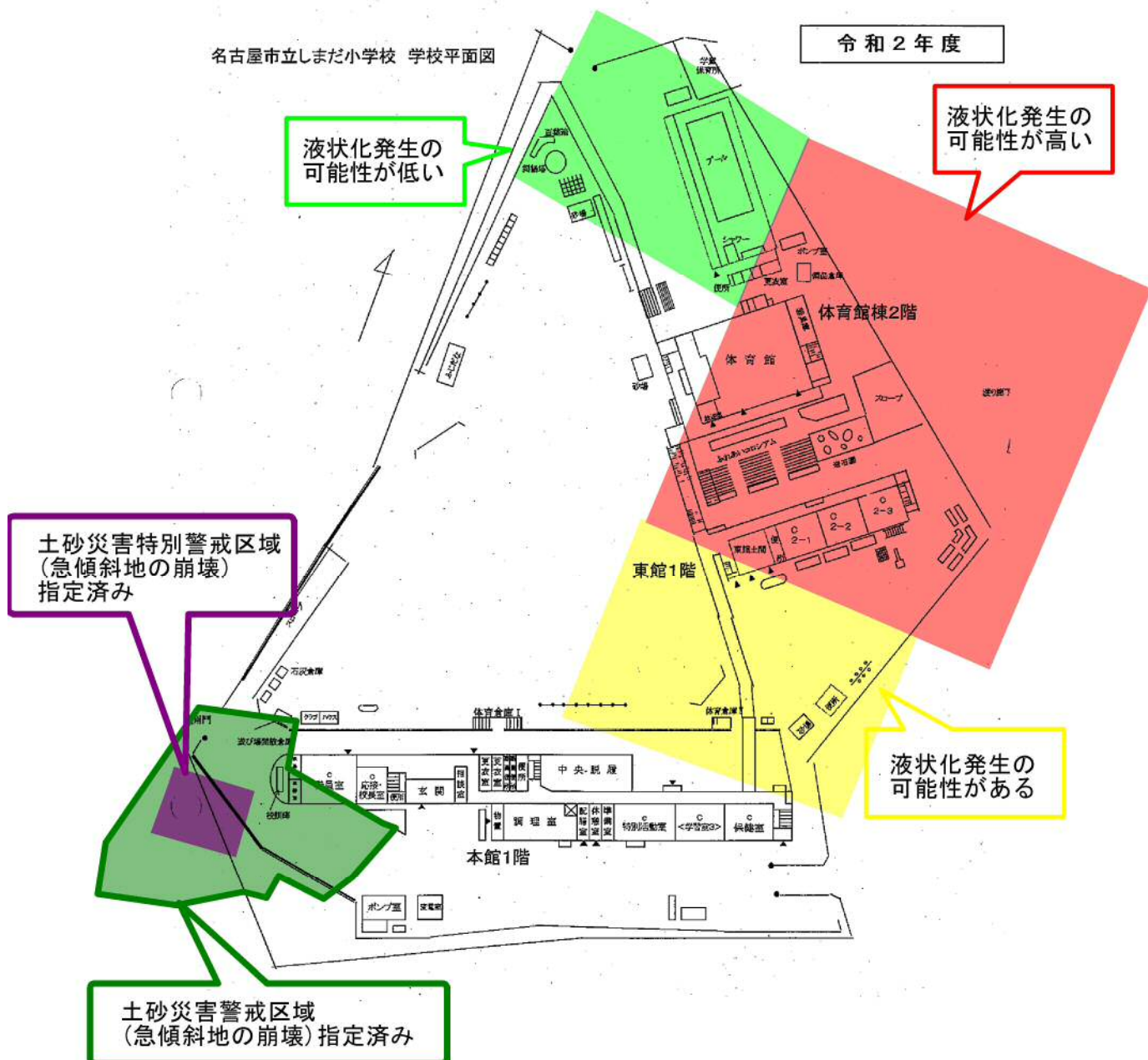
「指定避難所」…自宅被災で帰宅できない場合、避難生活を送るための所。体育館などの使用が想定されている。

区 分	指定緊急避難場所			指定避難所
	地震の場合	洪水・内水氾濫 の場合	土砂災害の場合	
しまだ小学校	グラウンド	本館以外は避難可能		○
(参考) 高坂小学校	グラウンド	○		○

高低差と校舎配置



土砂災害（特別）警戒区域及び 液状化発生の可能性エリア



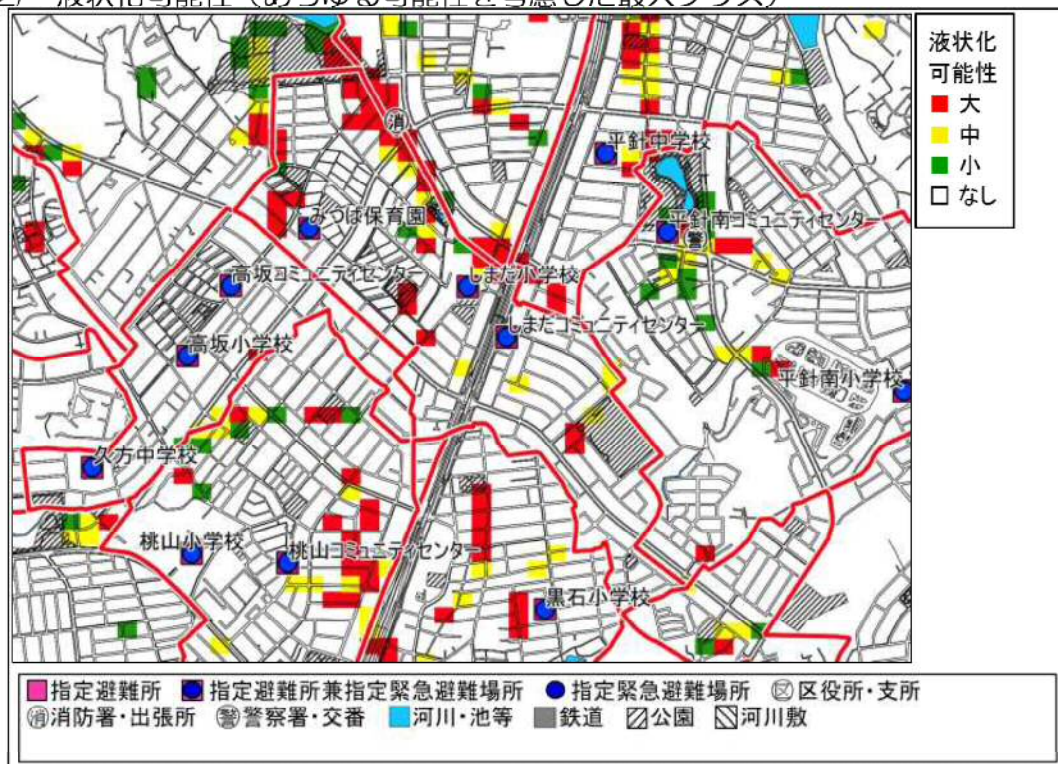
※土砂災害（特別）警戒区域については、マップあいち
（愛知県統合型地理情報システム）を参考に作成。

名古屋市地区防災カルテ 天白区しまだ学区（抜粋）

1－2 想定される災害リスク

1－2－1 あなたの街の地震ハザードマップを基に作成

(2) 液状化可能性（あらゆる可能性を考慮した最大クラス）



送電線について

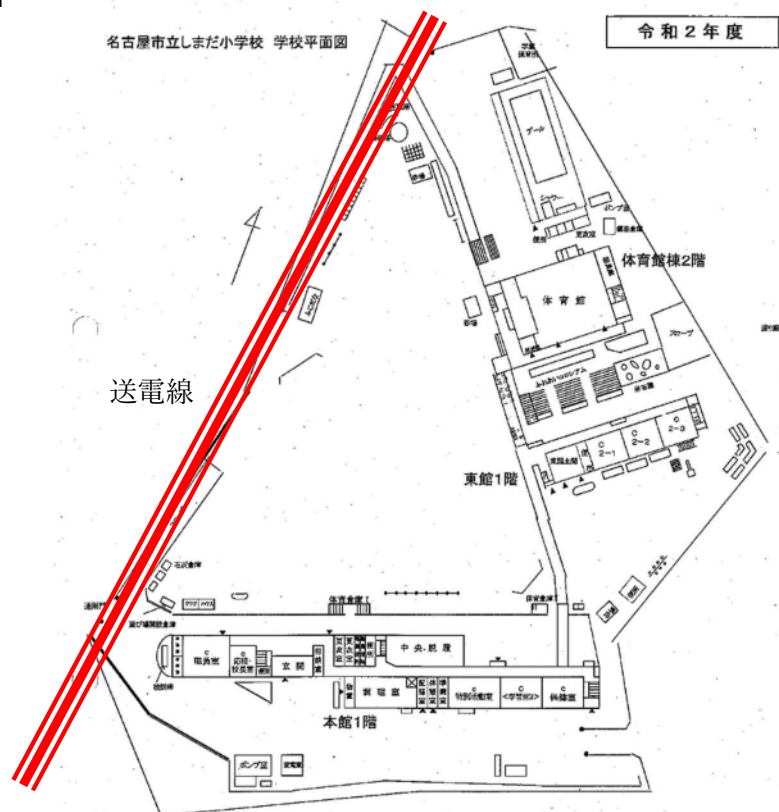
しまだ小学校運動場の西側端の上空の一部に送電線がありますが、鉄塔が校舎南側に隣接するがけ地の上にあることもあり、通常より高度が高いため、国の規制値を大きく下回り、影響は小さくなっています。

令和2年2月に中部電力により磁界を測定していただいたところ、いずれも国の規制値を大きく下回る数値となっています。国の基準値は200マイクロテスラとなっていますが、正門（送電線の真下）で測定したところ0.07マイクロテスラ、校庭内の送電線の真下で測定したところ0.15マイクロテスラでした。

なお、身の回りの磁界レベルは、電気カーペットは19マイクロテスラ、ドライヤーは3.7マイクロテスラ、液晶・プラズマテレビは0.1マイクロテスラです（中部電力パワーグリッドホームページ、電磁界（電磁波）の基礎知識、身の回りの電磁界参照）。

（令和2年6月「高坂小学校の統合に関するご質問と教育委員会の考え方について」より抜粋）

【送電線イメージ】



鉄塔について

- ・送電鉄塔の設計基準については、次のとおり中部電力（令和2年1月当時）から回答をいただいています。

「電気設備に関する技術基準を定める省令」の第32条第1項に「架空電線路又は架空電車線路の支持物の材料及び構造（支線を施設する場合は、当該支線に係るものを含む。）は、その支持物が支持する電線等による引張荷重、風速四十メートル毎秒の風圧荷重及び当該設置場所において通常想定される気象の変化、振動、衝撃その他の外部環境の影響を考慮し、倒壊のおそれがないよう、安全なものでなければならない。」と規定があります。

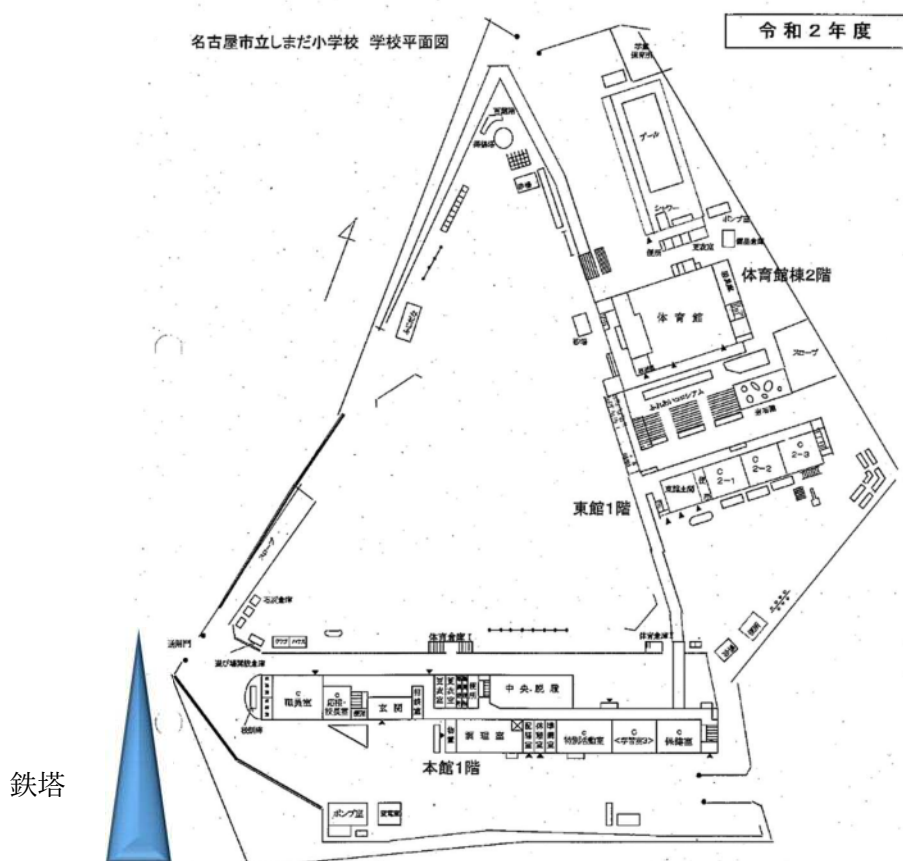
また、地震に関しましては、「地震に強い電気設備のために（資源エネルギー庁編）」に「風荷重は一般的な地震動による荷重を上回るものとして評価」、「現行の風荷重基準は耐震基準としても妥当であると評価」と明記されております。

以上のことから、送電鉄塔は、風荷重にて設計されていれば、地震動に対しても十分な安全性を有していると評価しています。

当該鉄塔の基礎について、セキュリティ上、具体的な基礎形状（深さ、幅等）につきましては、お答えできかねますが、上記の通り、倒壊の恐れがないよう安全に設計しております。

（令和2年11月「高坂小学校未就学児保護者相談会」の開催結果より抜粋）

【鉄塔イメージ】



想定される通学路について

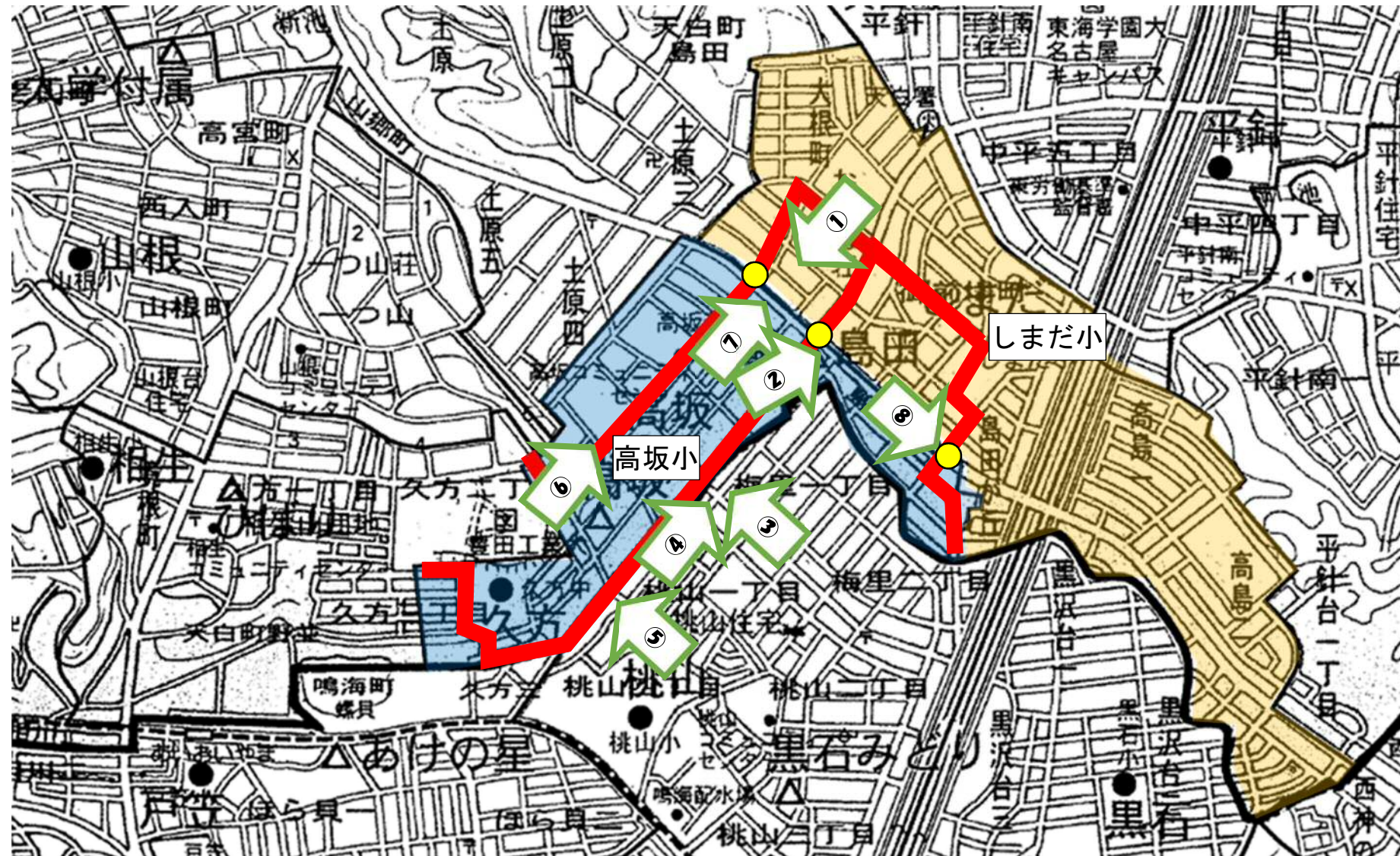
①歩道あり



②歩行者先行信号あり



③歩行者信号あり



⑧信号あり



⑦歩道あり



※久方中通学路
信号あり

④歩道あり



⑤歩行者信号あり



⑥歩道あり



※この地図の作成にあたっては、名古屋市学校配置図の一部を使用し、複製しました。(東洋地図株式会社承諾済)

小学校 35 人学級を段階的に実施した場合の学級規模について (高坂小・しまだ小)

以下は、「高坂小学校としまだ小学校の統合に関する個別プラン（諮問）」に記載している学級数の見込みについて、令和 3 年 2 月 2 日に閣議決定された「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律の一部を改正する法律案」の内容を参考に、35 人学級を段階的に実施するとした場合の想定である。

試算の考え方

区分	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生
令和 2 年度						
3 年度					40人学級	
4 年度	従来から、小学校 1, 2 年における 30人学級を実施					
5 年度						
6 年度						
7 年度			35人学級で試算			
8 年度						

※いずれも特別支援学級の学級数及び児童数は含まない。

1 学級数及び児童数の見込み

(1) 高坂小学校

区分	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
学級数	6 学級	6 学級	6 学級	6 学級	6 学級	6 学級	6 学級
児童数	105 人	108 人	116 人	126 人	137 人	137 人	131 人

(2) しまだ小学校

区分	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
学級数	14 学級	13 学級	12 学級	12 学級	13 学級	14 学級	13 学級
児童数	392 人	385 人	366 人	351 人	352 人	354 人	351 人

2 統合を想定した場合の学級数及び児童数の見込み

区分	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
学級数	15 学級	16 学級	16 学級	17 学級	19 学級	19 学級	18 学級
児童数	497 人	493 人	482 人	477 人	489 人	491 人	482 人